

12月には、多くの小中学校で保護者との懇談会が行われます。保護者が来校し、担任と直接話ができる懇談会は、どの学年でも貴重な機会です。保護者の方が、「担任の先生はうちの子を温かく見てくれている」と感じれば、学級づくりの一層の協力者となります。また、インフルエンザ等の感染症が流行し始めるのも、この時期です。予防の取組を通して、クラスのまとまりを強めましょう。



<小学校>

児童の成長につながる保護者懇談会

保護者懇談会は、児童の様子を伝えると同時に保護者との信頼関係をつくる機会でもあります。

保護者と支援の方向を共有し（必要に応じ学年会でも支援の方向を検討）、3学期からの児童の成長につなげましょう。



【保護者が知りたい子どもの様子を！】

今までの保護者とのやりとりの中で、その保護者が気にしていることがあったら情報を集め、具体的な姿を伝える。

(例) 友人関係(休み時間の過ごし方)、学習への取組の様子や理解度、清掃、当番活動など

【保護者の思いを受け止め、伝える言葉で！】

- ・保護者の願いや悩みを親身になって聴き、共感しながら学校・家庭での支援について相談する。
- ・その子のよい面を具体的な姿で伝えながら、さらに伸ばしていきたいことについて確認する。

みんなで予防 インフルエンザ 咳エチケットで 「かからない」「うつさない」

インフルエンザの主な感染経路は、咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。担任は、咳エチケットの重要性について指導をするとともに児童の体調をこまめに観察し、クラス全体で予防の取組への意識を高めましょう。



【飛沫感染対策としての咳エチケット】

- 咳やくしゃみを他の人に向けて発しないようにしましょう。(流行期、給食時の座席は向い合せにしない。)
- 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクを着用し、マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆いましょう。
- 鼻汁・痰等を含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。

<中学校>

生徒の自立心を育む保護者懇談会

生徒・保護者・担任の三者懇談を行いながら、場合によっては保護者と担任の二者懇談に切り替えることがあります。短時間の懇談を有効なものにし、生徒の成長や可能性を伸ばし、生徒の自立心を育む支援を保護者と一緒に考えましょう。



【資料の提示でわかりやすい説明を！】

- ・生徒が記入した「2学期を振り返って」などで生徒の言葉を使いながら、担任がよい姿を付け加え、3学期から頑張るところを確認する。
- ・学習成績(テスト点)や提出物の状況等をデータで示し、生徒自身がよさや課題や取り組みたいことに気づけるようにする。

【生徒の思いを受け止め、共有する！】

- ・生徒の願いや悩みを保護者と一緒に受け止める(進路や友人関係については、普段の様子をしっかりと把握しておく)。
- ・生徒の考えを尋ね(何をすべきか等、生徒自身が)見通しをもてるようにする。

クラスで進めるインフルエンザ予防

日本では、インフルエンザは例年12月～4月頃に流行し、1月末～3月上旬に流行のピークを迎えます。特に、高校受験を控える3年生にとって、体調管理や予防の取組は極めて重要です。学級担任は当番や保健委員の活動をサポートしながら予防への意識を高めるとともに、学級で取組目標を決めるなど、組織でインフルエンザの予防対策を行い、大事な時期を乗り越えましょう。

【取組目標の例】

- 1 流水、石けんによる手洗いでインフルエンザウイルスを除去しよう。
- 2 十分な睡眠とバランスのとれた食事で体の抵抗力を高めよう。
- 3 「咳エチケット」を心がけよう。
- 4 加湿器などを使って適切な湿度(50%～60%)を保持しよう。
- 5 人混みや繁華街への外出を控えよう。



なお、流行前のワクチン接種も有効といわれています。